

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300164		
法人名	医療法人 栄心会		
事業所名	さかえライフハート美術館通り		
所在地	福島県郡山市字下館野11-1		
自己評価作成日	平成29年1月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 <http://www.kaihokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームはクリニックが母体となっている為、医療面においては毎日医師や看護師に報告しており、夜間の緊急時であってもいつでも相談できる体制ができております。ご本人様・ご家族様にとって安心できる環境であると思います。また、災害時においては同法人が運営する近隣施設との連携・応援体制が整っている事も強みです。入居者様の看取り介護の必要性を考え、終末期の生活支援に関する基本的な考え方・対応についてチーム全体で支えられる体制を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- キャリアパス制度を導入し、職員個々人の目標、希望、勤務態度の現状分析から、それに応じた計画的研修を実施しており、法人として職員の資質向上に取り組んでいる。
- 法人が医療機関なので、日常的に医師や看護師と連携し、健康管理や疾病の早期発見、早期治療に取り組み、家族とも情報を共有し、利用者が安心して生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日々の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内には理念を掲示しており、その理念をスタッフ間で共有し実践に努めている。新入社員についても、入社時にオリエンテーションにて理念を伝え、意識の共有を図っている。	理念を掲示し、各種会議で確認し、実践につなげている。利用者の変化や実情に応じた理念の見直しを検討している。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事や清掃活動に参加している。また、地域のボランティア団体や幼稚園との交流も行っている。	地域の自治会に加入し、地域の文化祭や作品展、運動会に参加したり、事業所芋煮会に町長を招いたり、ボランティアによる清掃、踊り、歌などで利用者が交流できるよう取り組んでいる。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や面会に来られた友人・知人から相談があった際にはその都度アドバイスしているものの、他の地域の方々に対しては、認知症の理解や支援法を広めることはできていない。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業内容や行事等の報告、事業所内にて発生した事故等についての報告を行なっている。その際、委員から頂いたアドバイスを活かし、サービス向上に努めている。	定期的に開催し、利用者、職員状況、行事、防災、研修、事故、評価など現状を報告し、話し合っている。委員の提案で車椅子利用者の生活空間の改善を図るなどサービス向上に活かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や運営上の相談、及びご家族・ご利用者からの相談等について回答をいたぐる、週に1～2回、市介護保険課・地域包括ケア推進課を訪問しており、その際に情報交換をおこなっている。	日頃から市と連絡を密に取り、毎週1、2回市介護保険課、地域包括ケア推進課を訪れ、運営状況の報告、運営課題の改善などを相談しており協力関係を築いている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や、身体拘束廃止委員会を中心とした内部研修をおこない、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、日中は玄関に施錠せず対応している。	身体拘束排除のマニュアルを整備し、研修をしている。管理者は拘束に繋がる言葉遣いに留意するよう各種会議で周知し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修に参加し虐待についての理解を深めると共に、日常業務の中においても虐待につながるような言葉が出ていないか等、職員一人ひとりが注意しながらケアにあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する等して制度について学習している。現在、制度を必要とする方はいないが、必要時には活用できるよう、今後も学習・研修等への参加を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護について知識が無い方でも分かるように、契約時の説明については極力分かりやすい言葉で行うようにしており、不安・疑問点についても相手の方が納得されるまで説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族からの意見、各居室に備え付け意見・要望用紙や玄関に設置してあるご意見箱を活用している。また、面会・電話時に得た要望については、すぐに入会スタッフ間で共有し、運営に反映させている。	日頃の利用者との会話や家族との面談の中から運営に関する利用者の声を把握したり、意見箱を設置している。また、より家族との連携を密にし、家族の声を運営に反映させるため家族会発足を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや全体会議を毎月開催し、職員から提案された事案等については優先順位を踏まえて改善を行っている。その他、年2回、個人面談を実施して会議では発言できないような些細な意見でも相談できるようにしている。	管理者が職員と年2回、個別面談をしたり、職員の声、希望を運営に反映させるため、職員提案事案に優先順位をつけ改善を図るなど、職員意見を迅速に反映する取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、自己評価・管理者評価を行っている。サービス残業ゼロを徹底していると共に、有休も気軽に取得できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いての内部研修の開催、個々の能力や希望に応じた外部研修への参加を積極的に行っている。また、外部研修参加職員から、内部研修として勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、研修参加時には他事業所の職員と交流を図ったり、施設を訪問し情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談依頼後は、ご本人と直接お会いしてサービスの説明をし、要望・不安等をお聞きして、新しい環境となることに対する不安が軽減できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の要望・現在困っている事・不安な事を傾聴し、どのようなケアが提供できるか説明を行い、相談・確認しながら信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状や要望を踏まえ、今現在必要としている支援を見極め、必要なサービスが提供出来るよう法人内外の事業所間で連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する側、される側」という一方的な関係にならないよう、調理を一緒にしていただいている、洗濯物たたみ等の役割を持っていただいている、時にはご本人から教えて頂くような場面を作り関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の様子をその都度報告している。また、遠方のご家族で定期的な面会が難しい方については、電話連絡等を行い予定を確認しながら、ご本人とご家族の交流が図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や知人等の面会時には、ゆっくり一緒に時間を過ごしていただけるように配慮している。また、継続して面会に来ていただけるような雰囲気作りを大切にして、関係が途切れないように努めている。	利用者が重度化していることもあり、訪問理美容を利用しているが、外食、買い物など地域の馴染みの店を利用するため、家族と連携し支援している。家族や親戚、知人が面会にきていただけるよう配慮し関係が途切れないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの生活歴や趣味、ご利用者同士の相性等を把握し、相性・趣味が合えば、併設の小規模多機能のご利用者と将棋をしたりと、ご利用者同士の関係性には常に注視し関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係終了後も、必要時はいつでも相談可能であることをご家族へ伝えており、柔軟に対応できるような体制をとっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、ご本人の日常的な行動や言動を観察して、一人ひとりの思いや希望を把握できるように努めている。また、把握が困難な場合は、その都度カンファレンスを開催し、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を把握するため、職員は日頃から話しかけたり、家族からの情報を収集している。誕生日には本人、家族、担当職員が何が出来るか検討し、出来るだけ本人の希望に沿って実現するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメントを基に情報を共有してケアにあたっている。また、入居後も日常のご本人との会話の中からエピソード等を伺ったり、面会に来られた方等からも話をお聞きしてケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録だけではなく、カンファレンス・申し送り等を通じて入居者の現状を把握し、その都度看護師や介護職と相談しながら個人の身体状態に合った支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要関係者の意見を取り入れ、毎月カンファレンスを行っている。全員が出席出来ない場合には事前に意見を出してもらい、全員で検討できるようにして現状に即した計画を作成している。	本人、家族の希望、関係者の意見を踏まえ、趣味、生活能力などから、より良く暮らすための課題やケアのあり方を検討している。利用開始時は1ヶ月後に介護計画の見直しを行い、その後は3ヶ月毎に見直している。状況変化時には迅速に状況に即して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の見直しは定期的に行っている。入居者の状態に変化が見られたときには職員全員が把握に努め、話し合いのもとケアプランの変更を行っている。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに対応できるように、意見や要望等を把握し、他業種との連携が図れるように取り組んでいる。また、誕生月にはご家族も巻き込んで、「ご本人に喜んでいただける特別企画」を実施している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括センター・民生員・町内会長に参加していただいている、グループホームの理解と協力が得られるよう取り組んでいる。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族共に、ほとんどが当法人のクリニックの往診を希望されている為、月2回の往診を受けている。また、他科受診が必要な際は、ご家族と連携しながら送迎・付添い等の対応を行っている。	本人、家族の希望する医療機関を選べるが、全員が法人医療機関を希望し往診を受けている。通院は家族付き添いを原則としているが、家族の都合に応じて職員が対応し、受診結果は相互に報告し共有されている。また、24時間オンコール体制が取られている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で入居者の状態に変化を感じた際は、すぐに看護師に報告し指示のもと対応している。また、ほぼ毎日看護師からクリニックへの報告を行なっており、受診等が必要になった際はすぐに対応できる体制となっている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の病状や日常生活の様子等、医療機関へ必要な情報提供を行っている。入院中も、相談員や病棟看護師と随時情報をやり取りしながら、病院関係者との関係作りを行っている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」や「終末期の生活支援に関する基本的な考え方」等を明記し、それを基にチーム全体で支援する体制を整えている。また、状態変化時には、医師と家族との直接話しが出来る機会を設け、終末期に向けた今後の対応・方針について説明を行っている。	事業所の「看取りに関する指針」「看取りの実施意向に向けた対応」を家族に説明し同意を得ている。また、終末期に向けた対応については、状態変化により、医師、家族、事業所など関係者が話し合い、今後の方針を共有しながら連携し支援している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急救手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	緊急対応マニュアルを職員に配布し、事務所・スタッフルームへ掲示している。また、外部研修への参加や内部研修を実施し応急救手当や初期対応の知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全体で行う避難訓練・緊急連絡網を使った訓練の他、業務時間の合間に少人数での避難訓練を行っている。地域との協力体制の確立については検討課題である。	消防署立ち会いの避難訓練(夜間想定)を1回実施し、非常用備蓄品も準備されている。災害時の避難ルート確認や非常通報網での通報訓練等が行われているが、具体的な訓練計画とその結果の記録は確認できなかった。地域との協力体制構築は事業所の課題としている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を大切にして声掛けの仕方や言葉使いに注意している。また、入浴・排泄の介助等においてもプライバシーに配慮してケアにあたっている。	ケアマニュアルによる研修を実施し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけるよう全体ミーティングで周知徹底し支援に努めている。書類等の管理は、事務室で施錠管理を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、ご本人が気軽に何でも口に出して言えるような雰囲気作りを心掛けながら、自己決定できるように声かけ等も行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、ご本人の希望や生活習慣等を尊重しながらご本人のペースに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や着替え等の際は、ご本人が着たい洋服を選んでいただき、おしゃれを楽しめるように支援している。また、月1回の訪問理容の際はご本人やご家族の希望にそってカットしてもらっている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事やおやつの際は、野菜の皮むきや食器洗い等、ご利用者のできる範囲で手伝っていただいている。また、食事の際は、職員も同じテーブルで食べ会話をしながら楽しく食べれるような雰囲気作りを行っている。	食材と献立は配食サービスを利用し、それを利用者の咀嚼状態により、流動食や刻み食など食べやすい食事形態にして提供している。また、利用者と職員が食卓を囲み楽しい雰囲気となるよう心がけ、好きな回転寿司やラーメンなど外食する機会を設け、食事が楽しいものとなるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、食材配達サービスを利用して栄養バランスの取れた物を提供しており、カロリー計算もされている。食事形態もご利用者の状態の変化に合わせてその都度変更しながら提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けや介助を実施し、口腔内の状態確認等も合わせて行っている。また、必要に応じ訪問歯科の往診を依頼して状態維持できるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握を心掛けており、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。	定時排泄支援や排泄チェック表、表情、仕草から利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分摂取量の把握を行い、体操や運動も行っている。また、牛乳等も毎日提供しなるべく薬に頼らないようにしているが、排便困難者には下剤を使用し、看護師による排便コントロールを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣所に入浴の実績表を貼り、入居者の体調や希望に合わせて入浴を実施している。入浴を楽しんでいただく為、季節感のあるゆず湯や菖蒲湯等も行っている。	利用者の意向に沿った入浴支援を心がけ、ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤を利用して、楽しい入浴となるよう支援している。現在、利用者の半数が介助程度から併設事業所の機械浴を利用しており、入浴が負担にならないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて休憩していただきたり、就寝時間のリズムを崩さないように支援している。眠れない時には温かい飲み物を提供したり、会話をしたりしながら安心して休んでいただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを準備し、処方内容や臨時の頓服薬等の把握に努めている。処方の変更や追加があった際は、看護師からの申し送りが徹底されており、職員へ周知できるよう連絡ノートにも記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、現在の能力で出来る範囲での役割(洗濯物たたみ・掃除・調理等)を持っていただけるよう支援している。また、行事・外出等、入居者に楽しんでいただけるような企画も日々考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、ドライブや散歩等、気分転換が図れる機会を提供している。ご家族の申し出による外出・外泊はあるものの、外出については地域の方々の協力は得られない為、引き続き検討課題となっている。	季節に応じた花見や紅葉見学、ドライブ、外食など利用者の意向を反映した外出を多く出来るよう取り組んでいる。また、車椅子で敷地内や近隣の畠などへ出かけ気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自身でお金を管理している方は、現在は誰もいない。今後は、ご利用者一人ひとりの力を再検討し、自らお金を使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話することができる事を伝えており、電話使用の訴えがあった際には、随時、家族や知人への取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、その月や季節に合った壁画や習字、市や地区の作品展に出演した作品を掲示している。また、季節の花を飾る等、季節感を感じていただけるような工夫も行っている。	リビングルームには、季節に応じた創作壁画や文化祭出品作品などを掲示している。廊下・空間スペースには椅子やソファーがあり、利用者が居場所を選べるよう配慮されている。また、温度・湿度管理や花を飾るなど居心地よく過ごせるよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多い為ソファーの数を増やした。自由にイスやソファーに席を移られたりはしているが、男性入居者が多いこともあるのか、「気の合った利用者同士で思い思いに過ごせる」までには至っていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室にはご家族の協力を得て、ソファー やタンス・机等を持って来ていただき本人や家族の希望に合わせて配置している。使い慣れた家具は少ないが、家族との思い出の写真等を持参され居室内に飾る等して居心地の良い空間作りを心掛けている。	居室のレイアウトは利用者、家族の意向を反映した配置にしている。使い慣れたラジオやテレビ、整理タンスなどを持ち込み、家族写真や色紙などを飾り、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が自分で出来るよう、動きやすさに合わせて手すりやポータブルトイレ等を設置している。また、転倒の危険があるかたについては動線等を考慮しながら家具等の設置を行っている。		